



保護者の皆様へ

全国で子どもが被害に遭う痛ましい交通事故が発生しています。
お子さんの命を守るため、日頃から親子で交通安全意識を高めましょう。

チャイルド(ジュニア)シートの不使用・誤使用はお子さんの命に関わります！

危険な乗り方の例

シートベルト非着用

チャイルド(ジュニア)シートを
使用せず、ベルトを着用

交通事故

によって

全身強打

車外放出

首や内臓の
圧迫

道路交通法では次のように定められています。
法71条の3 第3項
チャイルドシートを使用しない幼児を乗車させて自動車を運転してはならない。

正しく使用できてるか安全チェックしましょう



チャイルドシート

1~4歳ぐらい
身長100cm以下
体重9~18kg前後

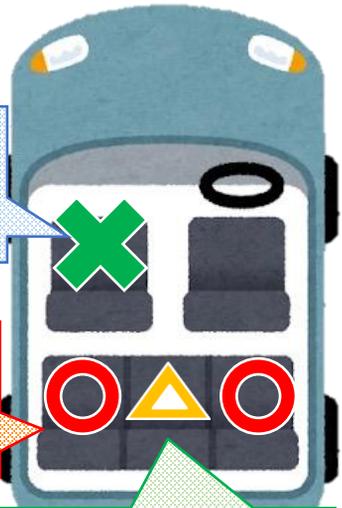
交通事故の際、エアバッグとチャイルドシートに挟まれ、大ケガをする恐れがあります



ジュニアシート

4~10歳ぐらい
身長150cm以下
体重15kg以上

乗り降りしやすく、運転席から様子が見える助手席側の後部座席が理想です！



後部座席の真ん中は車両のシート形状やシートベルト構造により、正しく取り付けられない場合があります！

- シートベルトにねじれやゆるみはないか
- 取扱説明書のとおり正しく取り付けができているか
- 肩ベルトは子どもの背丈にあっているか

取付時のみならず
定期的に安全チェックを
行いましょう



歩行中の安全ポイント

「止まる」を繰り返し指導する

子どもの危険行動で特に注意すべきは飛び出しです。日頃から「止まる」ことの大切さや止まる場所を指導しましょう。

《止まる場所》①横断歩道(脇道)横断時

②敷地(公園・店・家等)の出入り口 ③ストップマークがある場所



止まろうね



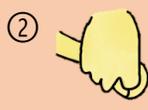
「手を繋ぐ」を習慣化させる

子どもの飛び出しや車が接近した際、子どもを守るために道路や駐車場では手を繋ぎましょう。ベビーカーや荷物等で手を繋ぐことが難しい時は、ベビーカーや洋服の裾等を子どもに持たせ、子どもだけで歩かないようにしましょう。

ほどけにくい手の繋ぎ方(例)



① 子どもに人差し指を握らせる

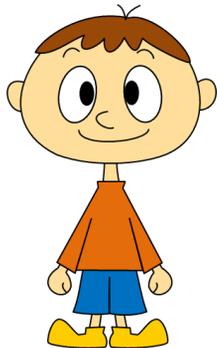


② 保護者が子どもの手首を握る

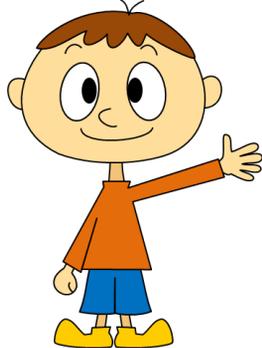
安全な横断方法を身につけさせる

子どもの成長に合わせて指導する内容を増やし、安全な横断方法を身につけさせましょう。

① 止まる



② 右手をあげる



③ 見る



単路では
右・左・右

交差点では
後ろや前も!

④ 周りを見ながら渡る
(車が来ていたら待つ)



指導ポイント



子どもの視野は大人より狭い！
顔や体を向けて安全確認させる

「何色の車が来た？」等
子どもが意識する声掛けを
しましょう！



保護者が子どもの手本となる

子どもは大人の真似をします。
子どもと一緒に手をあげる、安全確認をする等、ルールを守った行動をしましょう。

自転車に乗ったらヘルメットを着用させる



親子で着用！

自転車事故にて亡くなった方の致命傷となった部位は**頭部が約6割**を占めています。お子さんを自転車に乗せる際は、ヘルメットを着用させましょう。

また、幼児用座席に乗れる年齢は「**小学校就学の始期に達するまで**」となります。年長児は小学校入学年の4月1日から乗車できません。



明日は4月1日、
小学生になる日！
明日からは一緒に
乗れないね。